## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表	₹: 숙	<b>分和 6 年 3 月 29 日</b>	事業所名 多機能型事業所キートス 児童発達支援			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	5	1	・サーキットにも鉄棒などをいれ触れる機会を増やしている	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	児童に対して個別でつけてはいるが、そこのクオリティを 上げていきたい	個別対応はできているが、より良い 支援方法がないか協議していきま す。
体制整備	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	・色々なら物が見えるところに直すため、注意がそちらに 行く場合がある ・階段がある	片付ける場所や整理方法・位置など を変更し対応していきます。
		生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境 になっている。また、子ども達の活動に合わ せた空間となっている	6	0	使った物の消毒などは積極的に行なっている	
		業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	振り返りか出来ていない	時間内で振り返りの時間まで取れる よう業務の効率化を図っていきま す。
علاد	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対し て事業所の評価を実施するとともに、保護者 等の意向等を把握し、業務改善につなげてい る	6	0		
業務改善		事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業 務改善につなげている	3	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	6	0		
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、児 童発達支援計画を作成している	6	0		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	5	1	アセスメントツールは不足していると感じる	どのツールが適しているのか、各自 が知識を深め対応していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われてい る	6	0		
適切	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	支援ミーティングの際に話している	
な支援の提	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	6	0	なるべく気をつけている	

供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成 している	6	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、そ の日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	5	1	必ずではない	朝礼・昼礼等でシュミレーションの 確認まで行っていきます。
		支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付 いた点等を共有している	6	0	当日出来ない時は翌日に行います。 起こったことなどは伝えるように意識している	送迎後に児童発達管理責任者もしくは管理者に起こった出来事を話し、 振り返れる環境作りを徹底していき ます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底 し、支援の検証・改善につなげている	5	1	検証は出来ていない	検証できるよう、日々の様子な ど、スタッフ間で共有する機会 を増やします。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	6	0		
		障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわし い者が参画している	6	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	6	0		
関係機	1 23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	5	医療的ケア児は現在おりません	
関や保護者	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	5	医療的ケア児は現在おりません	
との連携		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、 支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	スムーズに移行出来るように、支援の方向性について 共有しています してはいるが、もっと密に関わる必要がある	気になる点などは送迎時を利用 して情報の共有をお行っていき ます。
関係機関		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		入学前に必ず担任の先生と連絡を取り、情報共有と送 迎についての確認をしています 送迎の際に確認はしている	
や保護		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	できていない	
者との	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流 や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5	出来てない	事業所では出来ていない為、必 要に応じて対応していきます。
の連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ど も・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	出来てない	事業所では出来ていない為、必 要に応じて対応していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	6	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム (ペアレント・トレーニング等) の支援を行っている	1	5		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	6	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援 の提供すべき支援」のねらい及び支援内容 と、これに基づき作成された「児童発達支援 計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から児童発達支援計画の同意を得てい る	6	0		
		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	6	0		

『護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	1	5		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		
		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対 して発信している	5	1	紙ベースのお知らせではなく、ラインを使ってお知らせをしています 会報は発行していない Instagram、LINE、連絡帳	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	6	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	1	5		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護 者に周知するとともに、発生を想定した訓練 を実施している	6	0	マニュア川作成や 訓練は行かっているが マニュア	訓練は定期的に実施しています。マニュアル等は現在作成中となっています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	6	0		
非常	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	6	0		
常時等の対	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師 の指示書に基づく対応がされている	6	0	す	イベント毎に対応が必要な児童 に関しては、適宜保護者様へ確 認するようにしています。
応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	5	1	ヒヤリハットの作成は確実に出来ていない	必要性を共有し、再発防止に向 けスタッフ間でも内容の把握に 努めていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	6	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3		

oこの「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。